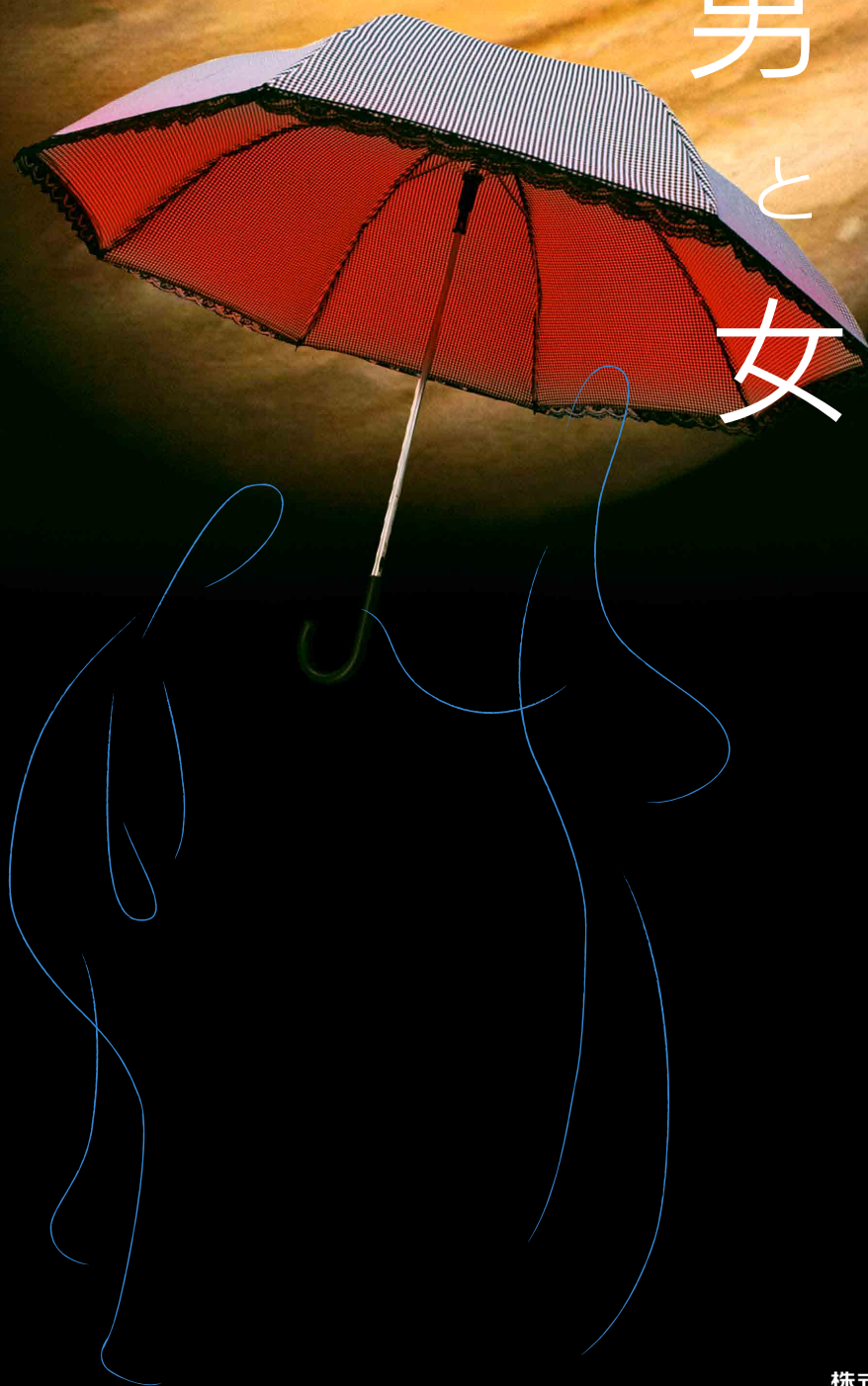


男と女の不完全マニユアル

木星の男と女

薄井ゆづじ



株式会社 ウィアックス

木星の男と女

50	49	48	47	46	45	44	43	42	41
駐車	雨傘	洗濯	花壇	双子	凶書	運転	新聞	散歩	禁断

禁断

同居するようになって十日ほど過ぎたとき、私は彼女の化粧台の上に小さな箱が置いてあるのに気がついた。のひらに載るくらいの大きさで、貝殻の象眼がほどこされた、海賊の宝箱を思わせる美しい箱だった。

「触らないで」と、彼女は言った。「この箱には絶対、触らないでね」

「何が入ってるの？」

彼女は答えなかった。二人のあいだに秘密はつくらないようにしよう。そう約束したはずなのに、その箱についてだけはタブーであるという。

そう言われると知りたくなる。彼女が外出しているとき、私はその禁断の箱を開けようとした。開けたことを黙っていれば、私も彼女に対して秘密を持つことになるから、あとで正直に言うつもりだった。

だが箱は、どうやっても開けなかった。鍵がついているわけではない。何か特別な仕掛けになっているのか。踏み潰してしまおうかとも思ったが、そこまでして中身を知る必要はない。私は諦めて箱をもとの場所に戻した。

「箱に触ったでしょう」

帰ってきた彼女が化粧台の前で言った。なぜ箱に触れたのがわかったのだろうか。

「開けようとしたんだ」正直に話した。

「開けては駄目、と言ったはずよ」

「何が入ってるのか知りたくなってね。何が入ってるんだ？」

「あなたには関係のないもの。中身を見たって、あなたにはどうしてこんなものが箱のなかに入っているのかわからないはず。あなたが傷ついたり悲しんだりするようなものじゃないから心配しないで」

「じゃあ、いったい何が」

ふん、と鼻先で言っつて、彼女は押し黙ってしまった。箱についてはもう、何も話したくないという態度だった。

何日かあと、彼女は別の箱を部屋のなかに持ちこんだ。こんどは以前のものより、すこし大きなものだった。

「この箱も、開けないでね。開けようとしたって、開かないと思うけど。そういうふうにできているの」

彼女の言うことは本当だった。新しい箱も開けようとしたが、蓋はびくともしなかった。

「また開けようとしたでしょう」

私は正直に、自分のしたことを言った。

「なぜ、私の箱に触るの？」

「秘密を持って欲しくないんだよ」

「秘密になんかしてない。箱は隠しておくわけじゃなくて、ここに置いてある。開けようとしても開かないはずだと説明までしたじゃない。あなたは、私の頭蓋骨をこじ開けて、脳味噌をその目で確かめないと気が済まないわけ？」

「そんなことは、しないよ」

「同じことなの。箱には触らないで」

何日かすると、彼女は三つ目の箱を持ちこんだ。そして私はそれを開けようとして開かず、いつもの問答を繰り返した。

箱の数は増えていった。

そのころから、すこしずつ妙なことに気がついた。箱が増えるたびに、部屋のなかにあった品物が、ひとつずつ減っていくような気がするのだ。どれがなくなっただという確証はない。ただ、大小いろいろな箱が部屋に持ちこまれるたびに、箱の大きさに合わせた何かが、ひとつずつ消えてなくなっていくような気がする。

「ねえ、きみが箱を持ちこむたびに、部屋のなかのものが何かひとつずつなくなるんだよ」

「なくなったりしない」

「気のせいかな」

「部屋にあるものは、部屋にある。私は、どこへも持ち出したりしていない」

「箱のなかに入れてるんじゃないのか」

「そう思いたければ、ご勝手に」

彼女は私に、何かを説明するのは面倒だという態度を明らかにするようになった。箱は増えつづけ、部屋のなかにあった品物はみるみるうちに減りつづけた。何が起きているのか、そのころになって、私にもやつとわかってきた。

私が自由に触れていたもの、私の持ち物だった品物、それらがいつの間にか私が触れることのできない場所に移動して彼女の側へ行き、彼女の所有物にすり替わっていくのだ。

やがて部屋のなかは、大小の箱で、ぎっしりと埋め尽くされた。箱の外にあるもので私のものは、数冊の本と髭剃りの道具くらいになった。ティッシュペーパーさえ見あたらない。あの豪華な禁断の箱のなかにティッ

薄井ゆうじ（うすいゆうじ）

1949年茨城県生まれ。イラストレーター、デザイン会社経営を経て、『残像少年』で第51回小説現代新人賞を受賞。『樹の上の草魚』で第15回吉川英治文学新人賞を受賞。主な著書は、『天使猫のいる部屋』『くじらの降る森』『12の星の物語』など。



ちょっと見文庫

男と女の不完全マニュアル
木星の男と女

発売日 2012年7月30日

著者 薄井ゆうじ

編集 栗田孝子

装丁 2010

企画 林秀和 西門直 大西健之 梶川悦子 志田淳

発行者 小川巧次

発行所 株式会社 **ヴィアックス**

〒164-8677

東京都中野区弥生町2-8-15

TEL 03-3299-6009

<http://www.viax.co.jp/>

無断転載・複製を禁じます。

© Yuji Usui 2012

この作品は2000年11月から2009年4月、月刊『アップルタウン』誌に連載したものに加筆修正したものです。